高瀬中だより

2026年10月22日
No.6

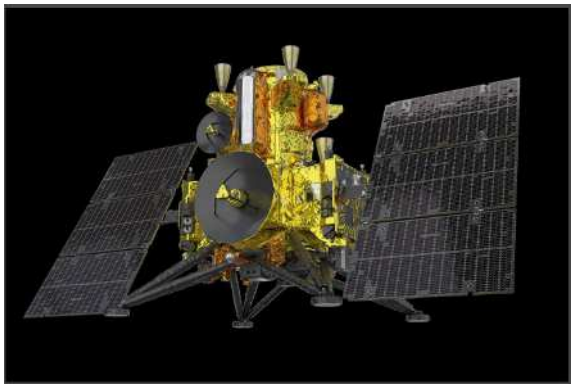
三豊市立高瀬中学校
〒767−0011
三豊市高瀬町下勝間2725番地1
TEL 0875−72−3161
FAX 0875−73−6188
文責　長谷川　忍

学校教育目標
自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

5年後の未来

先日、日本の JAXA が種子島宇宙センターから H3 ロケットを打ち上げ、火星衛星探査機「MMX」を予定の軌道へ無事に送り出しました。

「宇宙の話なんて自分には関係ない」と思った人もいるかもしれません。しかし、この探査機が火星の衛星「フォボス」に着陸して砂を採取し、地球へ帰ってくるのは約５年後の 2031 年７月です。今、中学生の皆さんが高校を卒業し、社会や大学で自分の道を歩んでいる未来の姿を想像してみてください。


火星衛星探査計画「MMX」の探査機イメージ（JAXA）

この計画のすごさは、世界で初めて「火星圏からのサンプルリターン(砂や物質の持ち帰り)」に挑む点にあります。火星にはかつて海があり生命が存在した可能性があり、フォボスの砂を調べることで生命誕生の謎に迫ることができます。さらに、日本主導のもと、アメリカ、フランス、ドイツなど各国の技術を結集した過去最大の国際ミッションでもあります。

なぜこれが皆さんの将来に関係しているかというと、将来、人類が地球外への移住を目指す際、火星は有力な候補であり、フォボスはその拠点（中継基地）として期待されているからです。皆さんが大人になる頃、世界は今以上に宇宙と身近になり、未知の選択肢や新しい仕事が生まれているはずです。

たとえ科学に興味がなくても、「誰もやったことがない未踏の壁に世界と協力して挑む姿」は、皆さんがこれから進路や夢に悩んだときの大きな道標になります。探査機が帰還する 2031 年、皆さんはどんな成長を遂げているでしょうか。世界が挑む大きな挑戦を感じながら、自分自身の未来への第一歩を力強く踏み出して欲しいと思います。

ノーベル化学賞【10/9 全校集会】

今日は、日本人がノーベル化学賞を受賞した素晴らしい話題から、皆さんの学校生活に役立つヒントをお話しします。

ノーベル化学賞を受賞された、東京理科大学名誉教授の硤合憲三（そあい けんそう）先生の研究は「ごくわずかな『きっかけ』が、自分と同じ仲間を爆発的に増やしていく」という「分子のチームワーク」（自己触媒反応）を発見したものです。

右と左がバラバラに混ざった分子の集まりに、ごく小さな「右型のきっかけ」を一つ入れると、周りの分子が次々と右型に変わり、最後には全体が一つに揃ってしまう現象です。

この発見ですが、実は、皆さんの「学校生活」にとてもよく似ています。

・例えば、朝の玄関で、誰かが「明るい挨拶」を一つする。　→　挨拶の輪が広がる
・例えば、登校時に生徒玄関で、誰かが「黙々とゴミを拾う」。　→　清掃の輪が広がる
・例えば、屋島学習の集合時に私語をしている人に、誰かが「しーっ」と言う。　→　全体が静かになる
・例えば、合唱コンクールの練習時に、誰かが本気で大きな声で歌い出す。　→　本気の輪が広がる

最初は「たった一人の小さなきっかけ」かもしれません。しかし、良い行動や挑戦する姿勢は、周囲の友だちへと伝染し、クラスや学校全体を大きく動かす力を持っています。

皆さんが今日起こす「小さな一歩」というきっかけが、明日のみんなの笑顔や学校の素晴らしい雰囲気を創り出します。ぜひ、自分なりの「良いきっかけ」を一つ、今日の学校生活の中で作ってみてください。